

詩經

海音寺潮五郎訳

中公文庫

中公文庫 ©1990
詩 經

一九八九年二月二五日印刷
一九九〇年一月一〇日発行
訳者 海音寺潮五郎

発行者 嶋中 鵬二

整版印刷 三晃印刷
カバー トープロ
用紙 本州製紙
製本 小泉製本

発行所 中央公論社

〒104 東京都中央区京橋二―八―七
振替東京二―三四
ISBN4-12-201678-9
Printed in Japan

中公文庫

詩 經

海音寺潮五郎訳



中央公論社

目次

はしがき

國風

周南 召南 邶風 鄘風 王風 鄭風 齊風 魏風 唐風

9 11 13 29 47 94 141 161 192 207 219

秦風

陳風

檜風

曹風

豳風

小雅

鹿鳴之什

南有嘉魚之什

鴻鴈之什

節南山之什

谷風之什

甫田之什

魚藻之什

239

256

268

274

281

299

301

327

348

366

407

434

455

大雅

文王之什

生民之什

蕩之什

頌

周頌

魯頌

商頌

あとがき

479

481

511

542

593

597

622

639

651

詩

經

はしがき

詩經は五經の一つとして、古來、中國文化圈の國々では知識人必讀の書とされてゐました。論語の末章の堯曰篇げうきつの最末に、「子曰く、命いのちを知らざれば、以て君子たる無きなり。禮を知らざれば、以て立つ無きなり。言を知らざれば、以て人を知る無きなり」とあります。この場合の「言」を、荻生徂徠は先王の法言であるとし、それは詩經と書經を意味すると解釋してゐます。つまり、詩經は聖人が選擇したり、作つたりした文學を集めたものであり、書經は先王の作爲した歴史記録の書である、すなはち、文學と歴史を知らなければ、人間といふものはわからないと孔子は言はれたと、徂徠は解釋してゐるのです。私は全面的にこの説に賛成です。

孔子がその弟子等を教育する上に、いかに詩を重んじたかは、論語を通讀したことのある人なら、氣づかない人はないであります。どうやら、孔子の時代には、場合々々に應じて適當な詩句を誦して自らの意志を通ずるのが、紳士たるもののたしなみでもあつたやうです。左傳を讀めば、それがはつきりとわかります。

私が詩經の翻譯をやり出したのも、實を申せば中國の古典を讀む便宜のためでした。經書類は申すまでもありませんが、史書でも、特に左傳にはよく詩經の詩が出て來ます。そのたびに

詩經をめくつて、その詩を検出しなければなりません。検出すれば詩として味はふために日本語の詩に翻譯してみるといふ作業もしなければなりません。さういふ風に出来た翻譯詩が、いつか相當數たまりました。あるとき、こんなことなら、頭から全部やつてしまへといふ氣になりました。もう十數年前のことです。はじめました。「風」の部はおもしろくておもしろくて、たしか一月くらの間にやつてしまつたやうに記憶してゐます。「雅」「頌」はなかなか手をつける氣になれずほつてゐましたが、一昨年、慶應病院に四ヶ月以上も入院しましたので、その間にやつてしまひました。

これはもともと私の讀書用のためのもので、そのはじめは世間に發表する氣はなく、大學ノートに書いてゐたのですが、朝日新聞社から出てゐる季刊雑誌「アジア・レビュー」に所望されて、滿四年にわたつて連載しまして、「風」の部だけはをりました。いろいろ書きたいことがあります、あとでまた書くことにします。

昭和四十八年七月一日

海音寺潮五郎

國

風

周南・召南

周の南方一帯の民謡を採取して、周の朝廷の樂師が譜したものであるといはれてゐる。後に出て来る雅や頌ほどではないが、他の國々の風（民謡）にくらべるとかなりに莊重な感がある。周南は周公旦の采地であつた土地の詩、召南は召公奭の采地であつた地方の詩といはれてゐる。

周 南

この詩は結婚式の時うたつたものといふ。

● 關 雎

關關雎鳩

在河之洲

窈窕淑女

君子好逑

關々々雎鳩

河ノ洲ニ在リ

窈窕タル淑女ハ

君子ノ好逑

みさご鳴く

河の洲に

みさご二つゐて

鳴きかはすや

ほろほろと。

參差荇菜
左右流之
窈窕淑女
寤寐求之

求之不得
寤寐思服
悠哉悠哉
輾轉反側

參差シシ荇菜カウサイハ
左右サイウシテ之コレヲ流モトム
窈窕エウテウタル淑女シユクヂョハ
寤寐ゴビ之コレヲ求モトム

之コレヲ求モトメテ得エザレバ
寤寐ゴビ思服シフクス
悠イウナル哉カナ 悠イウナル哉カナ
輾轉テンテン反側ハンソクス

よき家に

しら玉わかうとのたをやをとめはこもりゐて
よき若人の迎へ待つらむ

川中かはなかに

むら立ちしげるあさぎ菜は
えらびえらびて よきをとる

しら玉のたをやをとめは
いづべにぞあらむ

夜も晝も

さがしもとむる

心みつる得ざれば

寝ねても寝ねず

さめてもさめず

思ひわづらふ

わづらひなやみ

參差荇菜
左右采之
窈窕淑女
琴瑟友之

參差荇菜
左右采之
窈窕淑女
鍾鼓樂之

參差シンシタル荇菜カウサイハ
左右サイウシテ之ヲ采トル
窈窕エウテウタル淑女シユウヂョハ
琴瑟キンシツシ之ヲ友トモトセン

參差シンシタル荇菜カウサイハ
左右サイウシテ之ヲ采トル
窈窕エウテウタル淑女シユウヂョハ
鍾鼓ショウコシテ之ヲ樂ラクシマシメン

憂へやまず
寢がへりつづく

むら立ちしげるあさざ菜は
あさりあさりて
よきをえらびぬ
しら玉のたをやをとめよ
つひに得て妻とせり
ともに琴、ともに瑟しつ
いざともに奏かなで
いざともに樂しまむ

むら立ちしげるあさざ菜は
すぐりすぐりて
よきをとるぬ
しら玉のたをやをとめよ
つひに得て妻とせり